

全中道研会報

令和7年8月29日 No. 2
全日本中学校道德教育研究会
<https://www15.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350010>



令和7年度 道德教育推進教師育成講座

令和7年度の道德教育推進教師育成講座を下記のとおり、令和7年8月2日（土）、3日（日）の二日間にわたり、上廣倫理財団UFホールを会場に研修会を実施しました。北は北海道、南は沖縄県と全国各地から道德教育の推進に携わっている先生方（総勢29名）にご参加いただきました。全体研修会とグループ別研修会を通して、特別の教科 道德（以下：道德科）の授業力向上に向けた研修を実施しました。グループ別研修では5グループに分かれ、学習指導案を作成しました。

8月2日（土）

- ・開講式
- ・研修A 講演
学習指導案の作成について
麗澤大学大学院教授 鈴木明雄先生
- ・研修B・C 班別指導案作成

8月3日（日）

- ・研修D 講演
考え、議論する道德科の充実に向けて
国立教育政策研究所教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教科調査官
大平剛生先生
- ・研修E 模擬授業準備
- ・研修F・G グループ発表、模擬授業
- ・研修H 講演
グループ発表総括
麗澤大学大学院教授 鈴木明雄先生
- ・閉講式

1 全体

研修Aと研修Hでは、麗澤大学大学院 教授 鈴木 明雄 先生に「学習指導案の作成について」と「グループ発表総括・道德教育推進教師に望むこと」をテーマに、ご講演いただきました。道德教育推進教師として、校内で道德教育を推進していくヒントから道德科の授業で明日から使える指導方法まで幅広くご指導いただきました。研修Dでは、文部科学省教科調査官の大平 剛生 先生に、「考え、議論する道德科の充実に向けて」を演題として、ご講演いただきました。令和の日本型学校教育から発達の段階に応じた小学校・中学校・高等学校の体系的な指導まで、多岐にわたってご指導いただきました。

研修B・Cは、受講者が事前課題として、教材「帰郷」について、教材の内容分析を行い、作成してきた事前課題をグループ内で共有するとともに、その後の研修で検討する教材を検討しました。さらに、グループ内での教材分析の議論を踏まえ、学習指導案作成に向けた検討を行いました。

研修Eでは、グループごとに模擬授業の準備を進めました。模擬授業の形式で学習指導案を発表するため、より具体的な指導内容、指導方法等について議論を深めることができ



ました。各グループが、導入や展開、終末に至るまで細かな工夫を行っていたことに感じました。今回の教材を読み、自身の経験上作成した独自教材を準備してきた参加者もいました。二日間にわたるグループ協議は、内容項目、主題、中心的な発問や指導過程について、短時間では行うことが難しい内容まで踏み込んで検討を重ねていました。本講座の果たす役割と効果は大きいと考えます。

研修F・Gでは、各グループが作成した学習指導案を、模擬授業（20分）質疑応答（10分）として発表しました。発表後の質疑応答の時間も十分に取れたので、大変有意義な時間となりました。

本年度も、受講者にタブレットやパソコン等端末をご持参いただき、資料のペーパーレス化、共有フォルダの活用等を行いました。上廣倫理財団UFホールのインターネット環境は、大変良好でした。

ご指導いただきました文部科学省教科調査官の大平剛生先生、麗澤大学大学院教授の鈴木明雄先生、顧問・参与の皆様、受講者を推薦していただきました理事、当該校の校長先生方など関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。（事務局）

道徳教育推進教師育成講座 〈研修A～H〉

研修A

講演 学習指導案の作成について

講師 麗澤大学大学院教授 鈴木明雄先生

令和7年、8月2日（土）・3日（日）上廣倫理財団UFホール
全日本中学校道徳教育研究会
令和7年度道徳教育推進教師養成講座
教材「帰郷」を使った学習指導案作成と模擬授業
道徳科の授業構造と学習指導案
～推進教師の役割と道徳科授業の充実～

麗澤大学大学院学校教育研究科教授
全日本中学校道徳教育研究会顧問
元東京都北区立飛鳥中学校長
鈴木 明雄

思春期の児童生徒は心や身体について悩んでいる存在

→一人で、悩み苦しむ

→仲間がいると安心はする

※大人、一般社会に反発する

⇒場所と時間の提供が大切

一緒に活動できて嬉しくて安心

①自分でやりたい ②仲間と語り合いたい
主体的 ・ 対話的で深い学び…

鈴木先生からは、まず、道徳教育推進教師の役割と責任の理解について講話をいただきました。その後、本講座を踏まえて3点の説明がありました。①現行の道徳科授業の改訂の理解。②学習指導要領の求める「考え、議論する道徳科」、主体的・対話的で深い学びの実現。③ICTの活用、GIGAスクール構想の実現。よりよい学習活動を具体的化するお話では、方法知と目標知についても詳しく説明いただきました。また、道徳科の指導と評価の観点では、道徳科における質の高い多様な指導方法についても3点の例を挙げて、説明いただきました。①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習。

最後に、中学校教員は道徳教育を指導する際の原理として、次のことを忘れてはならないというお話がありました。

【指導の原理】道徳教育の「内容」は、教師も生徒も一緒になって理想的な人間の在り方を追求しながら、われわれは、いかに生きるべきかを、共に考え、共に語り合い、その実行に努める共通の課題である。



研修B・C

班別指導案作成（グループ協議）

事前課題をもとに、各自が作成した事前課題を発表するところからグループ協議が始まりました。同じ教材をすでに読み込んできているので、教材解釈・教材理解ができているところから協議ができるのは本講座の特徴です。グループ協議では、自己紹介を兼ねながら、道徳科の授業を行ううえで、心掛けていることや悩みなども共有できたことも収穫だと考えます。今回の講座で扱う教材は、文部科学省「読み物資料集」（平成24年3月）に掲載されている教材ということもあり、決まった内容項目がある中で、「せっかくの機会なので読み物資料集にある内容項目に縛られずに考えていきたい」という意見が出るなど協議の序盤から白熱した議論が展開されました。

各グループには、ファシリテーターを1名配置し、進行管理を行いながら、二日目の発表に向けた研修が続きました。



研修D

講演 考え、議論する道徳科の充実に向けて
講師 国立教育政策研究所教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教科調査官
大平剛生先生



講座二日目の最初の研修は、文部科学省より大平調査官をお招きして「考え、議論する道徳科の充実に向けて」と題して、ご講演をいただきました。初日に事前課題をもとにした学習指導案づくりで闊達な議論を行い、参加者にとっては道徳科の授業をさらに充実させるにはどうしたらよいかと思考が広がったところでの講演会となりました。大平調査官からは、学習指導要領の改訂や、道徳科だけでなく教育全般に関わる説明があり、教育基本法と学習指導要領との関連について、詳しくお話いただきました。また、道徳科の内容項目については、具体例を示しながら小学校から中学校への体系的に学ぶ大切さをご指導いただきました。特に、「礼儀」「自然愛護」の内容項目については、参加者と共に考える時間もあり、参加した受講者も主体的に学びを深める時間となりました。さらには、評価について「認めること」「励ますこと」をふまえた個人内評価をすることが必須で、発表や文章、プレゼンなどを積極的に取りためて、評価することが求められるというお話がありました。

ご多用の中、講演開始時間のご調整をいただき、ありがとうございました。

研修F・G

グループ発表、模擬授業

研修B・C・Eで、作成した学習指導案を「共有フォルダ」上にアップロードして、参加者は持参したタブレット端末等の画面上で各グループが作成した学習指導案を確認しました。直前まで修正が入る可能性があったため、電子化は大変有効でした。模擬授業については、グループごとに導入・展開・終末のいずれかを選択し、実施しました。終末では、持参した教材を活用したグループもありました。参加した受講者29名に事務局を入れて40名ほどの会場でしたが、授業者に選ばれた方は、いつも通りの授業になるように努めていました。

教材「帰郷」の内容項目は「思いやり、感謝」でしたが、「社会参画、公共の精神」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」の内容項目を選択するなど3つに分かれましたが、質問に答えながら内容項目にした意図を説明しました。



研修H

講演 グループ発表総括

講師 麗澤大学大学院教授 鈴木明雄先生



鈴木先生には、前日の班別指導案作成の時点から班に入っただき、ご指導をいただきました。グループ発表の総括は、今年度の使用教材「帰郷」の解説から始まりました。文部科学省の読み物資料集や私たちの道徳の教材の成り立ちや活用方法などを具体的に説明いただき、さらに今回の教材のポイントを解説いただきました。そして、そもそもこの講座では、過去にも扱った教材について内容項目が分かれたという事例があったというご説明があり、全国から先生方が集まる本講座ならではないかということでした。

グループ協議では、内容項目を決めるところから検討を始めたグループがありましたが、参加者の多くが道徳教育推進教師ということもあり「よい議論であった」と好評をいただきました。その後は、AグループからEグループの5つの班について、前日の協議内容や当日の模擬授業までを細かくご指導いただきました。内容項目に「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を選択したグループの講評では、教材の中にある一つ一つの道徳的価値をしっかりと捉えて、発問を構成し、感謝する場面では、誰に対して、どんな思いでということを考えて、郷土愛につながる部分もあったというお話がありました。

本講座を受けた先生方が、それぞれの地区に戻り、道徳教育のさらなる発展、充実に寄与してくださいことを願っております。

道徳教育推進教師育成講座 〈受講者の声〉

事後アンケート

※受講者29名中26名より回答

質問1 育成講座に参加しての全体的な感想はいかがでしたか。

- ・大変参考になった (24人)
- ・参考になった (2人)
- ・あまり参考にならなかった (0人)
- ・参考にならなかった (0人)

質問2 研修A講演「学習指導案の作成について」(鈴木明雄先生) 研修F指導講評「グループ発表総括」(鈴木明雄先生) についての感想をお聞かせください。

○ありがとうございました。大津のイジメによる自死の件と現在の道徳の内容項目の関連について改めて考えることができました。岐阜市の生徒の自死の件も踏まえ、学校教育全体を通じて道徳教育を進めていくことや大切にする意義を感じ、学校での実践を大切に、子供たちの育成に携わりたいと感じました。また対話の必要性について、例として挙げられたナショナルチームの監督の話から理解しやすかったです。私たち日本人らしきもあるとは思いますが世界と渡り合っていくためには教師主導の一斉授業の形なども考え直す必要があると感じました。

○学習指導要領特別の教科道徳「解説編」の具体的説明をしていただき、大変わかりやすく勉強になりました。視点をもって解説を見たり、読んだりすることを心掛けたいです。そして、ねらいを明確にして教材研究を行っていきたいと思います。

○「帰郷」の教材について、内容項目を「郷土愛」などの別の視点で読み取るきっかけを投げかけてくださることで、深く教材研

究ができた二日間になりました。

○授業構成や学習指導案の作成について、詳しく理解することができました。例となる教材が豊富で分かりやすかったです。道徳教育推進教師の役割も明確になりました。指導講評も抑えるべきポイントを示しながら、お話しくださり分かりやすかったです。

○大変勉強になりました。道徳の内容項目を今の項目数でまとめられる当時の苦勞を聞いて、内容項目の捉え方には人それぞれ多様性があると改めて考えさせられました。

○学習方法を明確にすることで、どのように学ぶかという方法知から目標知に繋げることで実践意欲に繋げていきたいと思いました。また、Eグループへのご指導として、班員で細かく議論した部分などを拾い上げてくださり頑張ってくれたと感じました。本当にありがとうございました。

○学習指導案を作成にするにあたり、鈴木先生が最初に話された内容項目について考えることがよりよい授業に繋がると感じました。また内容項目を決める際には「教材を読んで直感的思考を大切に内容項目を選ぶ」という話を聞き、道徳の教科だけではなく、他教科でも言えることだと感じました。授業では、教材を通してどのような力や資質(内面的なもの)を養ってもらいたいかを考えていくことが大切だと感じました。

質問3 研修B・C・E・F・Gまでのグループ協議について、全体的な感想はいかがでしたか。

- ・大変参考になった (24人)
- ・参考になった (2人)
- ・あまり参考にならなかった (0人)
- ・参考にならなかった (0人)

質問4 研修Dの講演「考え、議論する道徳科の授業の充実に向けて」(大平剛生先生)についての感想をお聞かせください。

- ありがとうございました。学年、発達の段階、過去の経験について考えた上で、授業仕組むことはあまり意識できていないと感じたので今後はそうしたこともさらに踏まえた上で、学園内で考え、カリキュラムを仕組むことを改善していきたいです。
- 発達性を考慮すること、非常に印象に残りました。小学校との連携、中1から中3の発達段階を考慮して授業を作ろうという視点が持てると教材への向き合い方や「解説」の見方が変わってくるなと感じました。具体的な実践につなげていきたいと思います。
- 「礼儀」「自然愛護」の内容項目について、小学校低学年から中学校まで、どのような変化があるのか、またどういう意味があるのかを考える時間がとても楽しかったです。自分自身のモヤモヤがすっきり晴れたような気持ちでした。
- 大平調査官から、学習指導要領の今後の方向性や、道徳だけでなく教育全般に関わるとご示唆を頂き、大変勉強になりました。
- 人口推移等の統計をもとに今後の状況を見据えながら、道徳について教育基本法と学習指導要領との比較・対応や、各学年の内容項目についての理解を小学校の内容と比較していくことなど、基本から分かりやすく話していただき、道徳の根幹の部分から見直していくことができました。
- 講演の中で各生徒の発達段階を踏まえた授業内容になっているかということをお話されていましたが、改めて段階に合った内容になっているかを意識して授業を展開していく必要があると感じました。また、評価の部分については認めること、励ますことをふまえた個人評価をすることが必須で、発表や文章、プレゼンなどの外面的な部分を評価することがないようにしたいです。
- 内容項目は昨年度と同じでないかどうかと

いうご指摘に「ハッ」としました。2学期以降の指導に生かして行きたいと思います。

- 今まで意識していなかった発達段階を意識して道徳授業を行うということを実践していきたいです。

質問5 今後の運営のために、お気づきの点やご意見等をお聞かせください。

- 1つの教材を使って頭から煙が出るくらい考えるという貴重な経験することができました。日々の業務に追われている中ではこうした時間が取れないためとても充実した時間でした。また様々な地域の方と話をすることで生徒の実態や地域によって見方や考え方があったので面白かったです。ファシリテーターの先生も入っていただく中で、話し合いが進みました。多くの先生のおかげで充実した研修となりました。
- 他県の研修に参加することが初めてで東京ということでかなり緊張しましたが、熱意のある先生方に囲まれて、濃い2日間を過ごすことができたと思います。道徳の研修はもちろんですが、他県の実態や研究実践にも触れることができ、私自身の教育に対する視野がかなり広がったと思います。2日目は授業者をやらせていただき、多くの学びがありました。自校でも、教師間の「対話」を大切に、クリエイティブな現場にしていけるよう、力を尽くしていきたいです。ありがとうございました。
- 二日間とも、講義のあとにグループの指導案検討がある流れは授業構成の理解が深まり、取り組みやすかったので、今後も続けていただきたいと思います。二日目の講義の資料も手元にあるとさらに分かりやすかったと感じました。全国の先生方と学び合う中で、新たな気づきが多く、実りある研修になりました。事務局の先生方、ご準備、ご指導ありがとうございました。